

令和元年度第2回 豊中市総合計画審議会

【日時】令和元年（2019年）11月15日（金）18時～

【場所】豊中市役所第二庁舎3階大会議室

次 第

1. 総合計画審議会部会の報告について

(1) 第一部会の報告について

(2) 第二部会の報告について

2. 2019年度(2018年度実施分)政策評価結果への意見集について

3. その他

<資料>

【資料1】2019年度(2018年度実施分)政策評価結果

【資料2】豊中市総合計画審議会部会の意見の概要について

【資料3】豊中市総合計画審議会第一部会の意見について

【資料4】豊中市総合計画審議会第二部会の意見について

【資料5】2019年度(2018年度実施分)政策評価結果への意見集について

【参考1】第4次豊中市総合計画（本編）

【参考2】第4次豊中市総合計画（概要版）

令和元年度豊中市総合計画審議会部会の意見の概要について

1. 評価シートのPDCAについて

番号	意見
1	<p>施策シートによってはPDCAのうち、DCAが明確に区分されておらず、わかりにくいものがある。</p> <p>(Pは施策名、DCAは総合評価の理由に書かれているが、PからDCAにつながっていないものがある。施策の方向性シートから施策シートに集約するためだと思われるが、Pの評価なので、Pを意識する必要がある。)</p>
2	<p>D、CとAの整合性が取れていない施策シートも見受けられるので、チェックの結果(課題や問題点)に対するアクション(今後の方向性)になっているか。また、それはあげられている指標から判断できるのかを確認する必要がある。(それぞれがつながっていないと読んだときに理解できる文章にならない。)</p>
3	<p>よく書けている施策シートをモデルにして、全庁で共有していくことも必要である。</p>
4	<p>総合評価の「A」評価と「B」評価を区別するためにも、評価で「B」とつけるなら、足りていない部分を明確にする必要がある。課題があったとしても、PDCAが概ねうまくまわっているのであれば「A」をつけてもよい。</p>
5	<p>今後の方針に書いているActionの内容は次年度の「P」になるものなので、それを追いかけないとActionで受けたものが次年度きちんとまわっているかの評価ができない。各担当課でも今後の方針が次年度の書きぶりにどう反映できているかを重要視して考える必要がある。</p>
6	<p>施策シートの真ん中に総合評価の理由を書く形式になっているが、この書式だとPDCAを書きづらくのかもしれない。本来はCheckの後に評価がきて、その次にActionが書く方が書きやすいので、施策シートのフォーマットも検討すべきである。</p>

2. 施策シートと施策の方向性シートについて

番号	意見
1	<p>施策シートと施策の方向性シートとのすみわけをどうするのかを整理する必要がある。</p> <p>(施策シートについては、細かく書くというよりは、結果として「A,B,C」と判断したその根拠を書くものである。当初の想定通りの進捗、成果なのか、想定外であれば、それがハンドリングできているかという観点で記入するのがよい。細かい DO (事業) や判断指標・成果については、施策の方向性にきっちり書くということで整理をしてはどうか。)</p>
2	市民(読み手)が知りたいことを意識して書く必要がある。
3	現状は定量評価が多くなっているが、次年度は定性評価として示すものを増やすことも検討する必要がある。
4	現在の施策シートは、「今年度取り組んだこと、まだ残っている課題、今後取り組んでいくこと」の書き方になっているが、「課題に対して取り組み、今年度はここまでできた。しかし残っている課題として〇〇がある」という書き方にした方がよい。
5	<p>施策シート及び施策の方向性シートによって事業の多さにバラつきがあるので、書き方を工夫する必要がある。</p> <p>(例)</p> <p>①代表的なものを選んで書く</p> <p>②機能ごとに取りまとめて書く</p>
6	施策シート及び施策の方向性シートには、課題が中心となりがちだが、市職員の自己肯定感を高める効果もあるので、取り組みの成果部分 (PR) をもっと書く必要がある。
7	施策シート及び施策の方向性シートを書いた後に、自分自身でチェックする必要がある。書いた内容について根拠があるのか、データ (指標) で示すことができるのかの視点でチェックする。
8	章に対しての全体の活動を評価するとすべて「B」になってしまうので、シートに書いている個別の活動から評価した方がよい。
9	それぞれの分野で喫緊の課題になっていることや世間に注目されていること、近年の施策を取り巻く環境の中で、どういうところが柱になっているのかをしっかりとおさえて書く必要がある。
10	審議会が知りたいことを事前に事務局に申し上げることも、効率的に評価をする上では必要なことなので、検討する必要がある。
11	用語集に載っていることがわかるような印がないと、市民は用語集を見ない

	ので、検討する必要がある。
12	「～必要です」というように、第三者的な書き方になっているシートがあるが、今後の方針では主体性をもった書き方をする必要がある。
13	今年度は1年目の評価なのでPDCAがまわっているか見えにくい部分がある。しかし来年度以降は、今年書いた内容の成果など、経年変化を意識しながら書く必要がある。
14	施策シート及び施策の方向性シートを作成する中での各部局の声も審議会に伝えてほしい。

3. 施策指標について

番号	意見
1	影響度の大きかった事業で書いている内容の指標がないので、どう影響度が大きかったかがわからない。根拠データとして指標を示す必要がある。
2	指標の目標値が減少する場合は、今後の方針などに文章として書く必要がある。目標値の正当性を説明する方がより生産的な議論につながる。
3	市民の意識の数値が低い場合は、その分析を「総合評価の理由」に記述した方がよい。
4	指標の数値で、具体的な数値(何千・何万)と書いているものがあるが、多すぎるとわかりづらい。市民一人当たりの数など工夫する必要がある。
5	指標の目標値について、どういう目標にしたいのか書いておく必要がある。

4. 後期基本計画策定に際しての検討材料について

番号	意見
1	それぞれの施策に詰め込んでいる事業の度合いがアンバランスになっているので、そのあたりのバランスをとる必要がある。
2	評価をするようになって初めて施策の説明文章が妥当であるかが見えてくるので、次回総合計画を作り直すときは評価のことも考えて、施策の文章を作成する必要がある。
3	現行の総合計画は、市役所の取組みで達成できる作りになっているが、本来はアウトカムを目標を追いかける作りをする必要がある。

令和元年度豊中市総合計画審議会第一部会の意見について

1. 評価シート全体について

番号	意見
1	シートによってはP D C Aのうち、D C Aが明確に区分されておらず、わかりにくいものがある。 (Pは施策名、D C Aは総合評価の理由に書かれているが、PからD C Aにつながっていないものがある。方向性シートから施策シートに集約するためだと思われるが、Pの評価なので、Pを意識する必要がある。)
2	D, CとAの整合性が取れていないシートも見受けられるので、チェックの結果(課題や問題点)に対するアクション(今後の方向性)になっているか。また、それはあげられている指標から判断できるのかを確認する必要がある。(それぞれがつながっていないと読んだときに理解できる文章にならない。)
3	よく書けているシートをモデルにして、全庁で共有していくことも必要である。
4	施策シートと施策の方向性シートとのすみわけをどうするのかを整理する必要がある。 (施策シートについては、細かく書くというよりは、結果として「A,B,C」と判断したその根拠を書くものである。当初の想定通りの進捗、成果なのか、想定外であれば、それがハンドリングできているかという観点で記入するのがよい。細かいD O(事業)や判断指標・成果については、施策の方向性にきっちり書くということで整理をしてはどうか。)
5	市民(読み手)が知りたいことを意識して書く必要がある。
6	現状は定量評価が多くなっているが、次年度は定性評価として示すものをもっとあってもよいのではないか。
7	現在の評価シートは、「今年度取り組んだこと、まだ残っている課題、今後取り組んでいくこと」の書き方になっているが、「課題に対して取り組み、今年度はここまでできた。しかし残っている課題として〇〇がある」という書き方にした方がいいのではないか。
8	評価シートによって事業の多さにバラつきがあるので、書き方を工夫する必要がある。 (例) ①代表的なものを選んで書く ②機能ごとに取りまとめて書く
9	評価シートには、課題が中心となりがちだが、市職員の自己肯定感を高める効果もあるので、取り組みの成果部分(P R)をもっと書く必要がある。

10	評価シートを書いた後に、自分自身でチェックする必要がある。書いた内容について根拠があるのか、データ（指標）で示すことができるのかの視点でチェックする。
11	評価で「B」とつけるなら、足りていない部分を明確にする必要がある。課題があったとしても、PDCAが概ねうまくまわっているのであれば「A」をつけてもいい。
12	章に対しての全体の活動を評価するとすべて「B」になってしまうので、シートに書いている個別の活動から評価した方がよい。
13	それぞれの分野で喫緊の課題になっていることや世間に注目されていること、近年の施策を取り巻く環境の中で、どういうところが柱になっているのかをしっかりとおさえて書く必要がある。
14	審議会が知りたいことを事前に事務局に申し上げることも、効率的に評価をする上では必要なことかもしれないので、検討する必要がある。
15	影響度の大きかった事業と書いている内容の指標がないので、どう影響度が大きかったかがわからない。根拠データとして指標を示す必要がある。
16	今後の方針に書いているActionの内容は次年度の「P」になるものなので、それを追いかけないとActionで受けたものが次年度きちんとまわっているかの評価ができない。各担当課でも今後の方針が次年度の書きぶりにどう反映できているかを重要視して考える必要がある。
17	施策シートの真ん中に総合評価の理由を書く形式になっているが、この書式だとPDCAを書きづらくのかもしれない。本来はCheckの後に評価がきて、その次にActionが書く方が書きやすいので、施策シートのフォーマットも検討すべきである。
18	評価シートを作成する中での各部局の声も審議会に伝えてほしい。

2. 各評価シートについて

(1) 第1章-1「子育て支援の充実」(P15)について

番号	意見
1	DCAが明確に区分されていないので、CAがまわっているかが判断しづらい。
2	P35の施策の方向性シートでは、問題点・今後想定される事項の「○」が2つに対し、今後の方針の「○」は4つということで整合性がとれていない。内容を見てみても対応していないので、この部分でCAが不整合を起こしており、施策シートもうまく書けていないのではないかと推察する。
3	P35の施策の方向性シートでは「産前・産後の切れめない支援を進めます」とあるが、何をもって切れめない支援を充実させようとしているのかがわからない。市として「切れめがない」とはどういうことかを評価シートに書く必要がある。

(2) 第 1 章-2 「保育・教育の充実」(P16)について

番号	意見
1	DCAの切り分けが不明確である。 (「取組みが必要である」はCheckの段階で、Actionになっていない。)
2	施策の方向性シートから施策シートを意識することも大事だが、Pから施策シートに対して意識することにより、Pがどう受けているか、何を書かないといけないかということも、より明確化してくる。
3	P38の施策の方向性シートでは「保育や幼児教育の充実を進めます」の結果として、研修の参加者数の指標だけでは不足しているので、検討する必要がある。
4	P39の施策の方向性シートを見ると、総花的な指標の印象を受けるので、実務と乖離しないよう注意する必要がある。
5	総合計画のP47の主な取組みの「③共に学ぶ教育の推進」は豊中市の教育の大きな特徴なので、評価シートに書くべきである。

(3) 第 1 章-3 「子ども・若者支援の充実」(P17)について

番号	意見
1	自尊感情は測るのが難しいものなので、文章の書きぶりを変えるか、根拠となる指標を示す必要がある。
2	「貧困の世代間連鎖を断つという目的を果たせました」とあるが、世代間連鎖が絶たれたかどうかは、その子どもたちの将来に関することなので、表現を変えた方がよい。
3	今のシートはまとめすぎていて、具体的に何かの部分がわかりにくくなっているように感じる。
4	P17の2つ目の○で、1つの○の中に「関係機関等と連携して支援を行い、相談しやすい環境づくりに努めました」と「関係課と連携した多面的な取組みにより、更なる包括的な支援体制づくりを強化します」という同じような表現が繰り返されているが、その間に本来は評価が必要である。
5	相談件数が増加していることをもって未然防止や重症化を防ぐとは言えないので、増加したところが成果というふうにとどめておくべきである。

(4)第2章-1「自立生活支援の充実」(P18)について

番号	意見
1	文章が長いので、もう少し文章としてのわかりやすさが必要である。
2	福祉の分野で、市の取組みではなく、外部の要因で変化するもので、自治体の努力ではどうにもならないものについては、制度を変えない限り市ではどうしようもないというストレートな意見を書いてもよい。そうすると現場が苦勞していることを市民と共有できる。
3	施策シートと施策の方向性シートで似たような内容を書いているので、施策シートに書くものと施策の方向性シートにとどめておくものを分けて調整する必要がある。
4	福祉便利屋事業や地域ケア個別会議など、かなり具体的な細かい事業まで書いているが、全体のストーリーという点では、大きくどういう成果があったのかを書いて、個別は施策の方向性シートで書くにとどめた方がよい。
5	子どもの貧困や地域包括ケアという現代的で重要な柱やトピックがあるので、市民が知りたいことを推測して、そこに寄り添う形で文章を書けばメリハリがついてくる。
6	1つ1つの事業名で説明をすると、主語述語の羅列になって書きづらいので、手法を考える工夫が必要である。代表的なものを書く、もしくは機能で取りまとめて「サービス面に関しては概ね前年と同様にできていますが、歳入・歳出面に関しては厳しくなり苦勞も増しているが、対応しています」というような書き方もある。やや抽象度は上がるが、細かいことは施策の方向性シートを見てくださいと割り切ってもよい。
7	P44のシートの成果の1つ目の○で「連携の意識づくりにつなげることができました」とあるが、具体的でなくわかりにくい。これに対応して問題点・今後想定される事項の「様々な課題が確認できました」もわかりにくくなっているので、もう少し具体的に書くべきである。

(5)第2章-2「保健・医療の充実」(P19)について

番号	意見
1	Aに「必要です」という書きぶりは、もっとやらなければならないことがあるということなので、Cに「課題です」と書くべきである。
2	市民全体の保険状態をどうしたか、行き届かないところがあったのかなどの書き方をするとよい。
3	市役所が追いかける指標だけを取り上げるのではなく、民間で行っているものもあり、データとしては取りにくいのが、社会の全体像の把握することも今後は必要である。

(6) 第 2 章－3 「消防・救急救命体制の充実」 (P20) について

番号	意見
1	「概ね達成しました」ということから、どこまでできているのかもわかり、さらに必要なこともあるので頑張りますということまで書いてあるので、わかりやすい。

(7) 第 2 章－4 「暮らしの安全対策の充実」 (P21) について

番号	意見
1	「やったこと・それに対する効果・今後頑張るべき課題」の 3 段階で書いてあり、メリハリがついていてわかりやすい
2	この施策については、警察等との緊密な連携を取っていることが指標として証拠になるので、会議の開催頻度を書いてもよい。
3	近年地震や水害の危険性が高まっているが、そこに対する言及がシートには書かれていないので、市民の関心も高いことから、万全の体制を取れている、もしくはまだ課題として残っているなどを書いたほうが良い。

(8) 第 5 章－1 「情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」 (P30) について

番号	意見
1	1 つ目の○で「電子媒体を利用していない市民等に対する情報発信の手段の確保・充実が課題となっており、特に災害時など緊急情報の発信について検討が必要です」と書いているが、その対策をどうするのかが書いていない。そして次からは「SNS」の話になっていて、SNSが使えない人への対応が必要だと書いているのに、次にSNSが出てくるのは違和感がある。
2	地域自治組織をこれからすべての地域で立ち上げて地域自治を推進したいという柱を掲げているのに、新千里北町地域自治協議会しか書いていない。市全体として現状はどうなのか、今年度頑張っていることはなにか、というメッセージをここに載せておくべきである。
3	人数のフォロワー数はあまり意味がないので、例えばツイッターアクティビティと呼ばれる、どれくらいの人が見てくれたか、反応してくれたかというので評価したほうがよい。
4	総合計画の P95 の (4) の施策の方向性には「多様な人たちが関わる地域自治を推進します」と書いてあるが、シートには書かれていないので、それがわかる指標あるいは評価を書く必要がある。

(9) 第 5 章-2 「持続可能な行財政運営の推進」(P31)について

番号	意見
1	2 つ目の○で「本市の誇るべき歴史とその意義を市内外の人に実感してもらうことができました」についての根拠データが見当たらないので、根拠データを示すか、データがないのであれば書きぶりを調整する必要がある。
2	ペーパーレス化が進んでいるからと言って財政が健全だとはなかなか思えないので、行財政の健全性は今どうなっているのか、それに対して昨年度は何をしたのか、どういう課題が残っているのかということをおここでは書くべきである。ただし、市民にはなじみがない数字なので、わかりやすくするために注釈をつける必要がある。
3	総合計画の P96 には人材育成について書かれているが、これからの世の中は人の問題も重要だと思うので、人材育成が効果的にまわっているかについて書く必要がある。

3. 後期基本計画策定に際しての検討材料について

番号	意見
1	それぞれの施策に詰め込んでいる事業の度合いがアンバランスになっているので、そのあたりのバランスをとる必要がある。
2	評価をするようになって初めて施策の説明文章が妥当であるかが見えてくるので、次回総合計画を作り直すときは評価のことも考えて、施策の文章を作成する必要がある。
3	現行の総合計画は、市役所の取組みで達成できる作りになっているが、本来はアウトカムの目標を追いかける作りにする必要がある。

令和元年度豊中市総合計画審議会第二部会の意見について

1. 評価シート全体について

番号	意見
1	用語集に載っていることがわかるような印がないと、市民は用語集を見ないので、検討する必要がある。
2	施策の方向性シートでは具体的に成果、問題点・今後想定される事項、今後の方針とPDCAを書く欄があり、書きやすくなっているが、施策シートの総合評価の理由では、PDCAが書けていないシートがある。施策の方向性シートに書いた内容をまとめて施策シートに書く必要がある。
3	「B」評価で「順調に進んでいるが一部取組みの見直しが必要です」と書くのではなく、見直しの具体的な内容を書く必要がある。これを書くことで、「A」と「B」の評価の線引きもできる。
4	指標の目標値が減少する場合は、今後の方針などに文章として書く必要がある。目標値の正当性を説明する方がより生産的な議論につながる。
5	「～必要です」というように、第三者的な書き方になっているシートがあるが、今後の方針では主体性をもった書き方をする必要がある。
6	市民の意識の数値が低い場合は、その分析を「総合評価の理由」に記述した方がよい。
7	指標の数値で、具体的な数値(何千・何万)と書いているものがあるが、多すぎるとわかりづらい。市民一人当たりの数など工夫する必要がある。
8	指標の目標値について、どういう目標にしたいのか書いておく必要がある。
9	今年度は1年目の評価なのでPDCAがまわっているか見えにくい部分がある。しかし来年度以降は、今年書いた内容の成果など、経年変化を意識しながら書く必要がある。

2. 各評価シートについて

(1) 第 3 章-1 「快適な都市環境の保全・創造」(P22)について

番号	意見
1	総合評価の理由の 2 つ目と 3 つ目の○は具体的に書かれているが、1 つ目の○は施策の方向性シート P57 と見比べると施策の方向性シートの方が詳しくなっている。シートの中での統一感はある方がよい。
2	P57 のシートの今後の方針の 2 つ目の○には、「子育て世代」とターゲットを絞っているが、施策シートではわからない。もしターゲットが定まっているのであれば、施策シートにもそれを書いたほうがよいし、来年度の評価をするときも振り返りやすくなる。
3	豊中市は河川環境にも力を入られているので、河川の美化やふれあいについての記述も検討した方がよい。
4	市民になじみが出るよう「天竺川の清掃」などの具体的な事業を施策の方向性シートに記述してもよい。

(2) 第 3 章-2 「低炭素・循環型社会の構築」(P23)について

番号	意見
1	1 つ目の○で「平成 28 年度(2016 年度比)と比較し、約 11.7%減少しました」と具体的に書いているが、2 つ目の○では「焼却処理量は微増しました」と数値を書いていない。客観的にみることができるようできるだけ数値を記入したほうがわかりやすい。
2	総合評価の理由の最後の文に「今後生じる恐れがある気候変動の影響を踏まえた取組みが必要である」とあるが、影響も千差万別のことなので、影響の中身を書かないと伝わらない。気候変動の防止に向けたぐらいでとどめておいた方がよいと思う。

(3) 第 3 章-3 「都市基盤の充実」(P24)について

番号	意見
1	自転車の対策や建物や道路整備については多くの課題があるので、その内容を具体的に書く必要がある。
2	P63 の 4 つ目の指標で、点検した割合だけでなく、点検の結果要望があったことに対する改善率などの指標を検討する必要がある。

(4) 第 3 章-4 「魅力的な住環境の形成」 (P25) について

番号	意見
1	総合評価の理由の最後の文に「事業全体は順調に進んでいますが、今後さらなる充実が必要」とあるが、課題として何が残っているのかを書く必要がある。
2	P67 の 2~4 つ指標名で「累計件数」とあるが、目標値が増加というのは設定がおかしい。累計件数は減ることがないのに、増加という設定はおかしいので、次年度以降検討する必要がある。
3	P65 の問題点・今後想定される事項の 4 つ目の○では、何を見極めるのか具体的に書く必要がある。また 5 つ目の○では何年も前から協議をしているので、現在どのような状況なのかを書いた方がよい。

(5) 第 3 章-5 「産業振興の充実」 (P26) について

番号	意見
1	P70 のシートの 1 つ目の指標に「開業率」があるが、「廃業率」もあった方が、活発さがわかるので、検討してみてもどうか。
2	P70 の 2 つ目の指標では、相談件数しかわからないので、その他の支援の指標も検討してはどうか。
3	市民の意識の数値が低いというのに、文章の量が少ないと市として弱い部分と見えてしまうので、書く文章の量には注意すべきである。

(6) 第 4 章-1 「共に生きる平和なまちづくり」 (P27) について

番号	意見
1	具体的な書き方になっていない部分があるので、シートの中で書きぶりを統一する必要がある。
2	P71 の指標については、1 つ目で「開催事業数」、2 つ目で「参加者数」としているが、事業数が増えれば参加者数が増えるのは当たり前のことなので、2 つ書く必要はない。他の指標を考えるべきである。
3	全体を通しては、様々な人権課題についての指標があるが、さまざまな取組み項目があると思われるので、指標の取り方については偏らないように検討する必要がある。
4	P27 の 3 つ目の○で「多言語での情報提供量を充実させていくことが引き続きの課題です」とあるが、もう少し具体的に書いたほうがよい。
5	多文化共生では、豊中市に来訪する外国人だけでなく、迎え入れる日本人側の多文化共生への心構えの学びや啓発の評価もあった方がよい。
6	指標の目標値が減少している場合は、減少する理由を文章で書いておいた方がよい。

7	市民の意識の数値が低いので、市民向けの啓発講座数や参加者数といった指標も必要である。
---	--

(7)第4章-2「市民文化の創造」(P28)について

番号	意見
1	「市民文化の創造」として何に力を入れているかわかりにくい。
2	施策シートと施策の方向性シートが1対1で対応しているにもかかわらず、書きぶりが一致しておらず、つながりが見えにくい。
3	PDC AサイクルのCまでできているのに、次につながない。

(8)第4章-3「いきいきと心豊かに暮らせるまちづくり」(P29)について

番号	意見
1	図書館と公民館の指標しかないので、もっと多角的な指標を検討すべきである。
2	「図書館の貸出冊数」を指標にするのであれば、年代ごとでどう違うのか、住んでいる地域でどう違うのかなどをいろんな角度から分析を行い、成果や問題点に書くべきである。

2019年度(2018年度実施分)政策評価結果 に対する意見集

本意見集は、豊中市総合計画審議会の審議過程において各委員から出された意見を取りまとめたものです。

今後、政策評価の運用にあたっては、本意見集を活用いただくことを願います。

令和元年（2019年）12月●日

豊中市総合計画審議会
会長 加藤 晃規

2019年度(2018年度実施分)政策評価結果に対する意見

当審議会では、2019年度(2018年度実施分)政策評価結果において、第三者の立場から、政策評価が事実に基づいて正しく評価されているか、P D C Aサイクルがまわるような書き方になっているか、市民が読んだときにわかりやすくなっているかの視点から審議を行いました。審議結果として、意見を取りまとめましたので、以下のとおり申し述べます。

◆総論について

1. 政策評価シートのP D C Aについて

1	施策シートによってはP D C Aのうち、D C Aが明確に区分されておらず、わかりにくいものがある。 (Pは施策名、D C Aは総合評価の理由に書かれているが、PからD C Aにつながっていないものがある。施策の方向性シートから施策シートに集約するためだと思われるが、Pの評価なので、Pを意識する必要がある。)
2	D、CとAの整合性が取れていない施策シートも見受けられるので、チェックの結果(課題や問題点)に対するアクション(今後の方向性)になっているか。また、それはあげられている指標から判断できるのかを確認する必要がある。
3	よく書けている施策シートをモデルにして、全庁で共有していくことも必要である。
4	総合評価の「A」評価と「B」評価を区別するためにも、評価で「B」とつけるなら、足りていない部分を明確にする必要がある。課題があったとしても、P D C Aが概ねうまくまわっているのであれば「A」をつけてもよい。
5	今後の方針に書いているA c t i o nの内容は次年度の「P」になるものなので、それを追いかけないとA c t i o nで受けたものが次年度きちんとまわっているかの評価ができない。各担当課でも今後の方針が次年度の書きぶりにどう反映できているかを重要視して考える必要がある。
6	施策シートの真ん中に総合評価の理由を書く形式になっているが、この書式だとP D C Aを書きづらくのかもしれない。本来はC h e c kの後に評価がきて、その次にA c t i o nが書く方が書きやすいので、施策シートのフォーマットも検討すべきである。

2. 施策シートと施策の方向性シートについて

1	<p>施策シートと施策の方向性シートとのすみわけをどうするのかを整理する必要がある。</p> <p>(施策シートについては、細かく書くというよりは、結果として「A, B, C」と判断したその根拠を書くものである。当初の想定通りの進捗、成果なのか、想定外であれば、それがハンドリングできているかという観点で記入するのがよい。細かいDO（事業）や判断指標・成果については、施策の方向性にきっちり書くということで整理をしてはどうか。)</p>
2	<p>市民(読み手)が知りたいことを意識して書く必要がある。</p>
3	<p>現状は定量評価が多くなっているが、次年度は定性評価として示すものを増やすことも検討する必要がある。</p>
4	<p>現在の施策シートは、「今年度取り組んだこと、まだ残っている課題、今後取り組んでいくこと」の書き方になっているが、「課題に対して取り組み、今年度はここまでできた。しかし残っている課題として〇〇がある」という書き方にした方がよい。</p>
5	<p>施策シート及び施策の方向性シートによって事業の多さにバラつきがあるので、書き方を工夫する必要がある。</p> <p>(例)</p> <p>①代表的なものを選んで書く</p> <p>②機能ごとに取りまとめて書く</p>
6	<p>施策シート及び施策の方向性シートには、課題が中心となりがちだが、市職員の自己肯定感を高める効果もあるので、取り組みの成果部分（PR）をもっと書く必要がある。</p>
7	<p>施策シート及び施策の方向性シートを書いた後に、自分自身でチェックする必要がある。書いた内容について根拠があるのか、データ（指標）で示すことができるのかの視点でチェックする。</p>
8	<p>章に対しての全体の活動を評価するとすべて「B」になってしまうので、シートに書いている個別の活動から評価した方がよい。</p>

9	それぞれの分野で喫緊の課題になっていることや世間に注目されていること、近年の施策を取り巻く環境の中で、どういうところが柱になっているのかをしっかりとおさえて書く必要がある。
10	審議会が知りたいことを事前に事務局に申し上げることも、効率的に評価をする上では必要なことなので、検討する必要がある。
11	用語集に載っていることがわかるような印がないと、市民は用語集を見ないので、検討する必要がある。
12	「～必要です」というように、第三者的な書き方になっているシートがあるが、今後の方針では主体性をもった書き方をする必要がある。
13	今年度は1年目の評価なのでPDCAがまわっているか見えにくい部分がある。しかし来年度以降は、今年書いた内容の成果など、経年変化を意識しながら書く必要がある。
14	施策シート及び施策の方向性シートを作成する中での各部局の声も審議会に伝えてほしい。

3. 施策指標について

1	影響度の大きかった事業で書いている内容の指標がないので、どう影響度が大きかったかがわからない。根拠データとして指標を示す必要がある。
2	指標の目標値が減少する場合は、今後の方針などに文章として書く必要がある。目標値の正当性を説明する方がより生産的な議論につながる。
3	市民の意識の数値が低い場合は、その分析を「総合評価の理由」に記述した方がよい。
4	指標の数値で、具体的な数値(何千・何万)と書いているものがあるが、多すぎるとわかりづらい。市民一人当たりの数など工夫する必要がある。
5	指標の目標値について、どういう目標にしたいのか書いておく必要がある。

4. 後期基本計画策定に際しての検討材料について

1	それぞれの施策に詰め込んでいる事業の度合いがアンバランスになっているので、そのあたりのバランスをとる必要がある。
2	評価をするようになって初めて施策の説明文章が妥当であるかが見えてくるので、次回総合計画を作り直すときは評価のことも考えて、施策の文章を作成する必要がある。
3	現行の総合計画は、市役所の取組みで達成できる作りになっているが、本来はアウトカムの目標を追いかける作りにする必要がある。

◆各論について

1. 第1章「子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり」

(1) 第1章－1「子育て支援の充実」について

1	DCAが明確に区分されていないので、CAがまわっているかが判断しづらい。
2	P35の施策の方向性シートでは、問題点・今後想定される事項の「○」が2つに対し、今後の方針の「○」は4つということで整合性がとれていない。内容を見てみても対応していないので、この部分でCAが不整合を起こしており、施策シートもうまく書けていないのではないかと推察する。
3	P35の施策の方向性シートでは「産前・産後の切れめない支援を進めます」とあるが、何をもって切れめない支援を充実させようとしているのかわからない。市として「切れめがない」とはどういうことかを評価シートに書く必要がある。

(2) 第1章－2「保育・教育の充実」について

1	DCAの切り分けが不明確である。 (「取組みが必要である」はCheckの段階で、Actionになっていない。)
2	施策の方向性シートから施策シートを意識することも大事だが、Pから施策シートに対して意識することにより、Pがどう受けているか、何を書かないといけな いかというところも、より明確化してくる。
3	P38の施策の方向性シートでは「保育や幼児教育の充実を進めます」の結果として、研修の参加者数の指標だけでは不足しているので、検討する必要がある。
4	P39の施策の方向性シートを見ると、総花的な指標の印象を受けるので、実務と乖離しないよう注意する必要がある。
5	総合計画のP47の主な取組みの「③共に学ぶ教育の推進」は豊中市の教育の大きな特徴なので、評価シートに書くべきである。

(3) 第1章－3「子ども・若者支援の充実」について

1	自尊感情は測るのが難しいものなので、文章の書きぶりを変えるか、根拠となる指標を示す必要がある。
---	---

2	「貧困の世代間連鎖を断つという目的を果たせました」とあるが、世代間連鎖が絶たれたかどうかは、その子どもたちの将来に関する事なので、表現を変えた方がよい。
3	今のシートはまとめすぎていて、具体的に何かの部分がわかりにくくなっているように感じる。
4	P17の2つ目の○で、1つの○の中に「関係機関等と連携して支援を行い、相談しやすい環境づくりに努めました」と「関係課と連携した多面的な取組みにより、更なる包括的な支援体制づくりを強化します」という同じような表現が繰り返されているが、その間に本来は評価が必要である。
5	相談件数が増加していることをもって未然防止や重症化を防ぐとは言えないので、増加したところが成果というふうにとどめておくべきである。

2. 第2章「安全に安心して暮らせるまちづくり」

(1) 第2章-1「自立生活支援の充実」について

1	文章が長いので、もう少し文章としてのわかりやすさが必要である。
2	福祉の分野で、市の取組みではなく、外部の要因で変化するもので、自治体の努力ではどうにもならないものについては、制度を変えない限り市ではどうしようもないというストレートな意見を書いてもよい。そうすると現場が苦勞していることを市民と共有できる。
3	施策シートと施策の方向性シートで似たような内容を書いているので、施策シートに書くものと施策の方向性シートにとどめておくものを分けて調整する必要がある。
4	福祉便利屋事業や地域ケア個別会議など、かなり具体的な細かい事業まで書いているが、全体のストーリーという点では、大きくどういう成果があったのかを書いて、個別は施策の方向性シートで書くにとどめた方がよい。
5	子どもの貧困や地域包括ケアという現代的で重要な柱やトピックがあるので、市民が知りたいことを推測して、そこに寄り添う形で文章を書けばメリハリがついてくる。

6	1 つ1つの事業名で説明をすると、主語述語の羅列になって書きづらいので、手法を考える工夫が必要である。代表的なものを書く、もしくは機能で取りまとめて「サービス面に関しては概ね前年と同様にできていますが、歳入・歳出面に関しては厳しくなり苦労も増しているが、対応しています」というような書き方もある。やや抽象度は上がるが、細かいことは施策の方向性シートを見てくださいと割り切ってもよい。
7	P44 のシートの成果の 1 つ目の○で「連携の意識づくりにつなげることができました」とあるが、具体的でなくわかりにくい。これに対応して問題点・今後想定される事項の「様々な課題が確認できました」もわかりにくくなっているため、もう少し具体的に書くべきである。

(2) 第2章-2 「保健・医療の充実」について

1	Aに「必要です」という書きぶりは、もっとやらなければならないことがあるということなので、Cに「課題です」と書くべきである。
2	市民全体の保険状態をどうしたか、行き届かないところがあったのかなどの書き方をするとよい。
3	市役所が追いかける指標だけを取り上げるのではなく、民間で行っているものもあり、データとしては取りにくいですが、社会の全体像の把握することも今後は必要である。

(3) 第2章-3 「消防・救急救命体制の充実」について

1	「概ね達成しました」ということから、どこまでできているのかもわかり、さらに必要なこともあるので頑張りますということまで書いてあるので、わかりやすい。
---	--

(4) 第2章-4 「暮らしの安全対策の充実」について

1	「やったこと・それに対する効果・今後頑張るべき課題」の3段階で書いてあり、メリハリがついていてわかりやすい。
---	--

2	この施策については、警察等との緊密な連携を取っていることが指標として証拠になるので、会議の開催頻度を書いてもよい。
3	近年地震や水害の危険性が高まっているが、そこに対する言及がシートには書かれていないので、市民の関心も高いことから、万全の体制を取れている、もしくはまだ課題として残っているなどを書いたほうが良い。

3. 第3章「活力ある快適なまちづくり」

(1) 第3章－1「快適な都市環境の保全・創造」について

1	総合評価の理由の2つ目と3つ目の○は具体的に書かれているが、1つ目の○は施策の方向性シート P57 と見比べると施策の方向性シートの方が詳しくなっている。シートの中での統一感があった方がよい。
2	P57 のシートの今後の方針の2つ目の○には、「子育て世代」とターゲットを絞っているが、施策シートではわからない。もしターゲットが定まっているのであれば、施策シートにもそれを書いたほうがよいし、来年度の評価をするときも振り返りやすくなる。
3	豊中市は河川環境にも力を入れられているので、河川の美化やふれあいについての記述も検討した方がよい。
4	市民になじみが出るよう「天竺川の清掃」などの具体的な事業を施策の方向性シートに記述してもよい。

(2) 第3章－2「低炭素・循環型社会の構築」について

1	1つ目の○で「平成28年度(2016年度比)と比較し、約11.7%減少しました」と具体的に書いているが、2つ目の○では「焼却処理量は微増しました」と数値を書いていない。客観的にみることができるようできるだけ数値を記入したほうがわかりやすい。
2	総合評価の理由の最後の文に「今後生じる恐れがある気候変動の影響を踏まえた取組みが必要である」とあるが、影響も千差万別のことなので、影響の中身を書かないと伝わらない。気候変動の防止に向けたぐらいでとどめておいた方がよいと思う。

(3) 第3章-3「都市基盤の充実」について

1	自転車の対策や建物や道路整備については多くの課題があるので、その内容を具体的に書く必要がある。
2	P63の4つ目の指標で、点検した割合だけでなく、点検の結果要望があったことに対する改善率などの指標を検討する必要がある。

(4) 第3章-4「魅力的な住環境の形成」について

1	総合評価の理由の最後の文に「事業全体は順調に進んでいますが、今後さらなる充実が必要」とあるが、課題として何が残っているのかを書く必要がある。
2	P67の2~4つ指標名で「累計件数」とあるが、目標値が増加というのは設定がおかしい。累計件数は減ることがないのに、増加という設定はおかしいので、次年度以降検討する必要がある。
3	P65の問題点・今後想定される事項の4つ目の○では、何を見極めるのか具体的に書く必要がある。また5つ目の○では何年も前から協議をしているので、現在どのような状況なのかを書いた方がよい。

(5) 第3章-5「産業振興の充実」について

1	P70のシートの1つ目の指標に「開業率」があるが、「廃業率」もあった方が、活発さがわかるので、検討してみてはどうか。
2	P70の2つ目の指標では、相談件数しかわからないので、その他の支援の指標も検討してはどうか。
3	市民の意識の数値が低いうえに、文章の量が少ないと市として弱い部分と見えてしまうので、書く文章の量には注意すべきである。

4. 第4章「いきいきと心豊かに暮らせるまちづくり」

(1) 第4章-1「共に生きる平和なまちづくり」について

1	具体的な書き方になっていない部分があるので、シートの中で書きぶりを統一する必要がある。
---	---

2	P71 の指標については、1 つ目で「開催事業数」、2 つ目で「参加者数」としているが、事業数が増えれば参加者数が増えるのは当たり前のことなので、2 つ書く必要はない。他の指標を考えるべきである。
3	全体を通しては、様々な人権課題についての指標があるが、さまざまな取組み項目があると思われるので、指標の取り方については偏らないように検討する必要がある。
4	P27 の 3 つ目の○で「多言語での情報提供量を充実させていくことが引き続きの課題です」とあるが、もう少し具体的に書いたほうがよい。
5	多文化共生では、豊中市に来訪する外国人だけでなく、迎え入れる日本人側の多文化共生への心構えの学びや啓発の評価もあった方がよい。
6	指標の目標値が減少している場合は、減少する理由を文章で書いておいた方がよい。
7	市民の意識の数値が低いので、市民向けの啓発講座数や参加者数といった指標も必要である。

(2) 第4章－2 「市民文化の創造」について

1	「市民文化の創造」として何に力を入れているかわかりにくい。
2	施策シートと施策の方向性シートが1対1で対応しているにもかかわらず、書きぶりが一致しておらず、つながりが見えにくい。
3	P D C A サイクルの C までできているのに、次につながっていない。

(3) 第4章－3 「いきいきと心豊かに暮らせるまちづくり」について

1	図書館と公民館の指標しかないので、もっと多角的な指標を検討すべきである。
2	「図書館の貸出冊数」を指標にするのであれば、年代ごとでどう違うのか、住んでいる地域でどう違うのかなどをいろんな角度から分析を行い、成果や問題点に書くべきである。

5. 第5章「施策推進に向けた取組み」

(1) 第5章-1「情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」について

1	1 つ目の○で「電子媒体を利用していない市民等に対する情報発信の手段の確保・充実が課題となっており、特に災害時など緊急情報の発信について検討が必要です」と書いているが、その対策をどうするのかを書いていない。そして次からは「SNS」の話になっていて、SNSが使えない人への対応が必要だと書いているのに、次にSNSが出てくるのは違和感がある。
2	地域自治組織をこれからすべての地域で立ち上げて地域自治を推進したいという柱を掲げているのに、新千里北町地域自治協議会しか書いていない。市全体として現状はどうか、今年度頑張っていることはなにか、というメッセージをここに載せておくべきである。
3	人数のフォロワー数はあまり意味がないので、例えばツイッターアクティビティと呼ばれる、どれくらいの人が見てくれたか、反応してくれたかというので評価したほうがよい。
4	総合計画の P95 の(4)の施策の方向性には「多様な人たちが関わる地域自治を推進します」と書いてあるが、シートには書かれていないので、それがわかる指標あるいは評価を書く必要がある。

(2) 第5章-2「持続可能な行財政運営の推進」について

1	2 つ目の○で「本市の誇るべき歴史とその意義を市内外の人にも実感してもらうことができました」についての根拠データが見当たらないので、根拠データを示すか、データがないのであれば書きぶりを調整する必要がある。
2	ペーパーレス化が進んでいるからと言って財政が健全だとはなかなか思えないので、行財政の健全性は今どうなっているのか、それに対して昨年度は何をしたのか、どういう課題が残っているのかということを書くべきである。ただし、市民にはなじみがない数字なので、わかりやすくするために注釈をつける必要がある。
3	総合計画の P96 には人材育成について書かれているが、これからの世の中は人の問題も重要だと思うので、人材育成が効果的にまわっているかについて書く必要がある。

6. リーディングプロジェクト「南部地域活性化プロジェクト」

1	評価シートにはソフト面を書いている部分が多いが、南部地域の活性化には、ソフト面とハード面どちらも書く必要がある。
2	政策評価とプロジェクトの評価は同一のものでないことが多く、プロジェクトを評価する場合は、ゴールに向けての進捗評価とプロセス評価の2項目で評価することが多いので、プロセスの評価も検討する必要がある。
3	リーディングプロジェクトの指標について、成果指標（アウトカム）だけではなく、施設等の工程管理的な視点で、すべきことができているかを把握する必要がある。その意味でも、市民意識調査だけでなく、ハード面の指標や活動指標（アウトプット）の視点でも見ていく必要がある。
4	プロジェクトではハード事業が注目されがちだが、ハード整備は時間がかかるので、ソフト事業について意識的に盛り込む必要がある。
5	評価シートに「SSW(スクールソーシャルワーカー)の活用」が書かれているが、単純に取り組む内容を記入するだけでなく、取組みに至った背景や意図などを丁寧に書く必要がある。
6	現在設定している指標は、アウトカムの指標であり、2018年度の実施事業に対しての評価が図れるものにはなっていない。「成果」のところにあるワークショップの開催回数や、「今後の方針」にある南部活性化の基本計画ができたか、資源活用場の場づくり、アートイベントなどのソフト事業が指標として考えられる。
7	南部地域活性化プロジェクトに関わるソフト事業のとりまとめがあると審議会として実りある議論ができる。